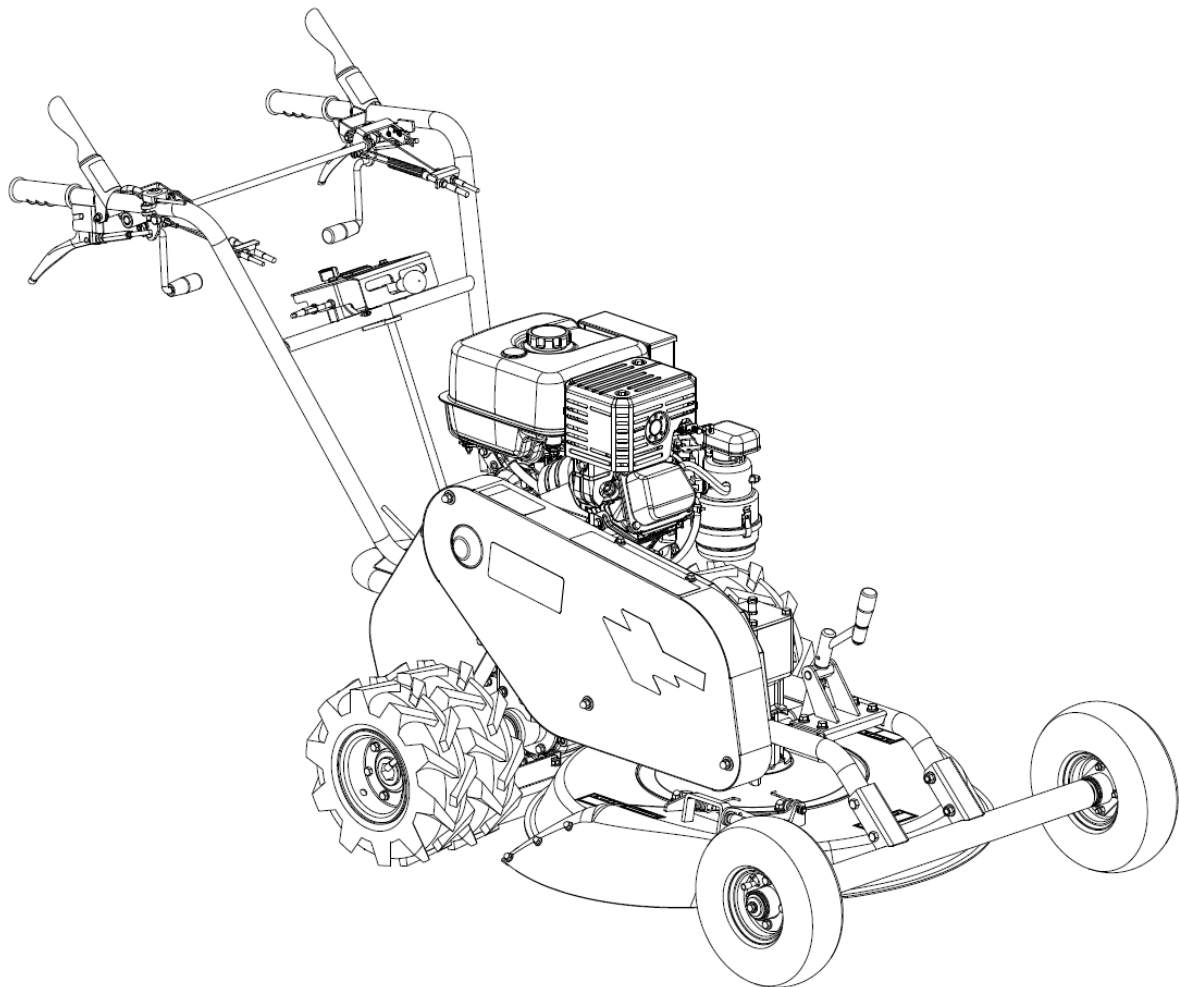


# 取扱説明書

シバウラ自走式ロータリーモア

R63AW2



0267-71010



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をよくお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品に近接して保管してください。

# 目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《定義とシンボルマークについて》	1
《本製品の規制について》	1
《重要なお知らせ》	2
《保証・契約書・免責事項》	2
<b>1. ご使用の前に〈必ずお読みください〉</b>	
1.1 作業条件	3
1.2 作業をする前に	3
1.2.1 作業前の注意事項	3
1.2.2 作業前の点検・確認	4
1.2.3 火気厳禁・燃料の給油	5
1.3 作業中は	6
1.3.1 作業中の注意事項	6
1.3.2 操作上の注意事項	6
1.3.3 作業中の点検・停止・清掃	7
1.4 積み降ろし及び運搬時の注意	7
1.5 点検・整備	8
1.6 保管時	9
1.7 警告表示マーク	9
<b>2. 各部の名称とはたらき</b>	
2.1 各部の名称	10
2.2 各部のはたらき	11
①走行クラッチレバー	11
②ナイフクラッチレバー	11
③サイドクラッチレバー	11
④変速レバー	11
⑤刈高調整レバー	12
⑥排出カバー	12
⑦スロットルレバー	13
⑧エンジンスイッチ	13
2.3 方向について	13
<b>3. 作業前の点検</b>	
3.1 エンジンオイルの点検	14
3.2 燃料の点検・給油	15
<b>4. 運転・作業のしかた</b>	
4.1 エンジンの始動・停止のしかた	16
4.1.1 エンジン始動のしかた	16
4.1.2 エンジン停止のしかた	17
4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた	18
4.2.1 走行のしかた	18
4.2.2 変速のしかた	18
4.2.3 旋回のしかた	19
4.2.4 停止のしかた	19
4.3 上手な作業のしかた	20
4.3.1 草刈作業のしかた	21
4.3.2 傾斜地での作業のしかた	22
4.4 積み降ろし及び運搬	23
4.4.1 積み降ろしのしかた	23
<b>5. 点検・整備・調整</b>	
5.1 オイルの点検・交換・注油	24
5.1.1 ミッションオイルの点検・交換	24
5.1.2 エンジンオイルの点検・交換	25
5.1.3 ギヤボックスのグリス交換	26
5.1.4 可動部への注油	26
5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整	27
5.2.1 エアクリナーの清掃	27
5.2.2 点火プラグの点検・調整	28
5.2.3 燃料パイプの点検	28
5.2.4 燃料フィルタポットの清掃	28
5.3 製品本機関連の点検・調整	29
5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整	29
①走行クラッチワイヤ調整	29
②ナイフクラッチワイヤ調整	29
③駐車ブレーキワイヤ調整	30
④ナイフブレーキワイヤ調整	30
⑤キャンセラーワイヤ調整	31
⑥サイドクラッチワイヤ調整	31
⑦ナイフベルト押さえの調整	31
5.3.2 タイヤ空気圧の調整	32
5.4 ナイフの点検・交換	32
5.4.1 ナイフの点検・交換	32
5.5 長期保管のしかた	33
5.5.1 長期保管の準備	33
5.5.2 次回使用時の注意	34
<b>6. 付表</b>	
6.1 仕様（参考数値）	35
6.2 工具袋・同梱品明細	36
6.3 消耗品明細	36
<b>7. 点検表</b>	
7.1 定期点検表	
7.2 エンジンの不調とその処理方法	
7.3 自己診断表	

## ■ 取扱説明書について




- 本機を使用する前にこの取扱説明書をよくお読みください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡しください。
- 紛失または破損した時は、直接販売店へご注文ください。

### 《はじめに》

- ✓ このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
- ✓ この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただく為に、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。
- ✓ ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱い方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立てください。
- ✓ また、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用ください。

### 《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従ってください。

シンボルマーク	定 義
 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守または矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

### 《本製品の規制について》

- 1) 本製品は農業用の機械として開発されておりますので、これ以外の用途（レンタル等で作業者が特定出来ないような使われ方）では使用しないでください。保証の対象外となる場合があります。
- 2) 地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。

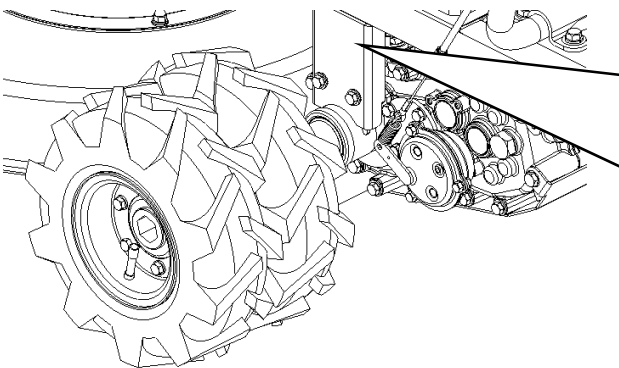
## 《重要なお知らせ》

- 1) 性能・耐久性向上及びその他仕様変更による部品等の変更で、お手元の製品仕様と本書の内容が、一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 2) 本書の内容の一部、または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので、予め御注意ください。
- 3) 本書では説明部位が具体的に理解できる様、写真・イラストを用いておりますが、説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 4) 本書は日本語を母国語としない方へのご使用を対象としておりません。

## 《保証・契約書・免責事項》

- 1) 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を熟読頂き、内容を理解しておいてください。
- 2) 本製品の保証期間は、新品購入から1ヶ年、または50使用時間（請負業務用については6ヶ月間、もしくは50使用時間）のうち、どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 3) 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 4) 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店（以降販売店）まで御相談ください。
- 5) 製品を安全に効率よく御使用続けて頂く為には定期的な点検・整備が不可欠です。「定期点検表」及び「年次点検表」に記載の定期的な点検・整備を必ず最低毎年一回は販売店で依頼しましょう。  
（有料）これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を超えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- 6) この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 7) ご不明な点及びサービス等関するご質問は、販売店まで御相談ください。その際は下記の箇所を参考に『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印または貼付されています。)]を確認し、併せて御連絡ください。

本機「製造番号」貼付け位置



種類 Description	芝刈機(歩行型)
型式名 Model	R63AW2
製造番号 Serial No	LC0000000000
発売元	株式会社 IHIアグリテック
株式会社オーレック    MADE IN JAPAN Orec Co.,LTD.        FABRIQUE AU JAPON	

# 1. ご使用の前に〈安全にお使いいただく為に、必ずお読みください〉

## 1.1 作業条件



- 1) 本書の内容を理解できない人は使用しないでください。
- 2) 所有者以外の方は使用しないことが原則です。やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」を熟読し、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導してください。
- 3) 過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業しないでください。
- 4) 酒気を帯びた人、妊婦、子ども(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないでください。
- 5) 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、適切な服装で行ってください。くわエタバコ、巻き(腰)タオルは厳禁です。
- 6) 製品に応じて、滑り止め(スパイク)のついた安全靴(長靴)やヘルメット(帽子)、防護眼鏡、手袋、スネ当て等の適切な装備を使用してください。

## 1.2 作業をする前に

### 1.2.1 作業前の注意事項



排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。屋内など換気が不十分な所では、運転や作業はしないでください。



- 1) 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないでください。  
(カバーの切断、標準品以外の装着、指定外のベルト・オイルの使用、安全装置の取外し等)  
**〈これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。〉**
- 2) 周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して作業を始めてください。
- 3) 石やその他の異物は事前に取り除き、障害物の位置を事前に確認した後で作業を始めてください。また、このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石等の異物が飛散し危険です。
- 4) 転落防止のため、川や崖や段差(路肩)を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性を考慮し、十分に安全な平坦地を走行してください。
- 5) エンジンや本機に草やごみ詰まりが無いか確認してください。エンジンの焼付きや火災防止の為、作業前に必ずこれらを取り除いてください。



- 1) 雨天時や水たまり等本機が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
- 2) その他気象条件等に留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

## 1.2.2 作業前の点検・確認



- 1) 前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないでください。
- 2) 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用してください。もし異常がある場合は修理を行い、正常な状態を確認してから作業をしてください。
- 3) 作業クラッチ（ナイフクラッチ等）が「切」位置の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え、ワイヤを調整してください。
- 4) ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めてください。また、古いものは新しいものに取り換えてください。
- 5) ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用してください。
- 6) 駐車ブレーキの効き具合を毎回必ず確認しておいてください。ブレーキの調整不良は重大事故を招きます。確認は以下のいずれか、または、複数で行ってください。
  - ① 変速レバー「N」位置で、駐車ブレーキをかけ大人二人で押しても動かない。
  - ② 走行させ、急ブレーキをかけた時にタイヤがロックする。
  - ③ 軽トラックの荷台にかけた7尺ブリッジ上で駐車ブレーキをかけて動かない。
- 7) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。  
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

### 1.2.3 火気厳禁・燃料の給油



- 1) **作業中及び給油中は火気厳禁です**。引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対行わないでください。
- 2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。
- 3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

## 1.3 作業中は

### 1.3.1 作業中の注意事項



- 1) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 2) 無理な姿勢で作業を行わず、体調に合わせ1～2時間程度で休息を取るようになしてください。
- 3) 作業する周囲（半径10m以内）に人やペットを近づけないでください。特に子どもには注意してください。人・子どもが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。
- 4) 運転中、周囲に燃えやすい物や危険物を置かないでください。また排気マフラは高温となります。本機操作時・作業終了直後等に手をかけると、火傷を負う恐れがあります。
- 5) 斜面での作業は、勾配が20度以下で使用ください。上下方向よりも横方向（等高線方向）に行うようになしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてくる、作業者の足が滑って本機に巻き込まれる等の恐れがあります。
- 6) 滑り止めなどの注意を十分行って、それでも滑りやすい場所では作業を行わないでください。

### 1.3.2 操作上の注意点



- 1) 始動時は走行(主)クラッチ、作業(ナイフ・ロータリー)クラッチを「切」位置にし、中立のあるものは変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動してください。
- 2) 斜面での旋回等の操作は十分に注意して行ってください。バランスを崩し、転倒してけがをする恐れがあります。
- 3) 斜面では、安全のため、変速レバー・クラッチレバー類の不要な操作は行わないでください。スリップ・転落・滑落等の危険があります。
- 4) バックする時は、人(特に子ども)・動物・障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差からの転落等がない様足場に注意してください。(該当製品)
- 5) 木の周りや壁際などの作業時は、ハウスの支柱や木の枝、鉄線等と本機との間に体や手を挟んだり、枝での打撲・挟まれに十分注意して作業を行ってください。
- 6) 旋回時は特に足元に注意し、作業部(ナイフ・爪など)、走行部(タイヤ・クローラー等)に巻き込まれないようになしてください。
- 7) 刈取方向を切り替える時には、その前後方向の安全性を確認した後に行ってください。
- 8) 作業(ナイフ)クラッチは、人(子ども含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作してください。
- 9) 刈取った草は本機右側から後方へ排出されますので、刈取るべき草に対して本製品を常に右側に位置させてください。(回り刈の場合は常に左回りで刈取ります。)



### 1.3.3 作業中の点検・停止・清掃



#### 注意

- 1) 作業中に点検する際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えてから、手を保護するために皮手袋などの丈夫な手袋をして実施ください。
- 2) 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めてください。また、安定した平坦地で確実に停車してください。
- 3) エンジンを止める際は、該当する製品については次の事を行ってください。
  - ①ブレーキをかける。②キーを抜く。③燃料コックを閉める。
- 4) 運転中の異常な音、匂い、発熱は火災の原因となる恐れがある為、直ちにエンジンを停止し、点検・修理してください。
- 5) 作業中、異物と衝突（噛み込み）した時は直ちに作業（草刈・耕運など）を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ・ナイフステー・爪類（該当製品）及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換ください。
- 6) その他作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止してから、点検を行ってください。
- 7) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。  
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

### 1.4 積み降ろし及び運搬時の注意



#### 危険

- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) 必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



#### 警告

- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。（積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無）
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。  
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

## 1.5 点検・整備

## ◎ 品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。

始業前点検・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼ください。

**〈定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意ください。〉**



**下記に記載の内容を守らないと火傷や傷害事故、機械故障の原因となります。**

- 1) ご使用前後に、日常の点検、整備を行う他、定期的に点検、整備を行って常に製品を安全で快適な状態に保つようにしてください。
- 2) 点検、調整、整備はエンジンを停止し、マフラ部やその他ミッションケースの過熱部位が完全に冷えてから皮手袋などの丈夫な手袋を着用し、適正な工具を正しく使用して行ってください。
- 3) 点検、調整、整備は地面が平坦で硬く、広くて明るい場所で行い、常に機体のバランスに留意し、転倒させない様に十分注意してください。
- 4) 本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行ってください。
- 5) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）の交換や着脱を行った場合は、指定の場所に確実に装着されているか、しっかりと締め付けしているか確認してください。
- 6) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）を新品に交換する際には安全のため取付けボルト類も一緒にメーカー純正品の新品と交換してください。
- 7) ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいてください。
- 8) 取外したカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けてください。
- 9) 指定外のアタッチメント取付けや、改造は絶対にしないでください。
- 10) 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、または傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換してください。



**下記に記載の内容を守らないと機械故障の原因となります。**

- 1) 本機を洗車する場合は、エンジン部（電装部、エアクリーナ付近、燃料キャップなど）及び警告ラベル貼付け箇所に水をかけないでください。
- 2) クラッチ類、スロットル、ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- 3) シートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後「約5分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。

## 1.6 保管時



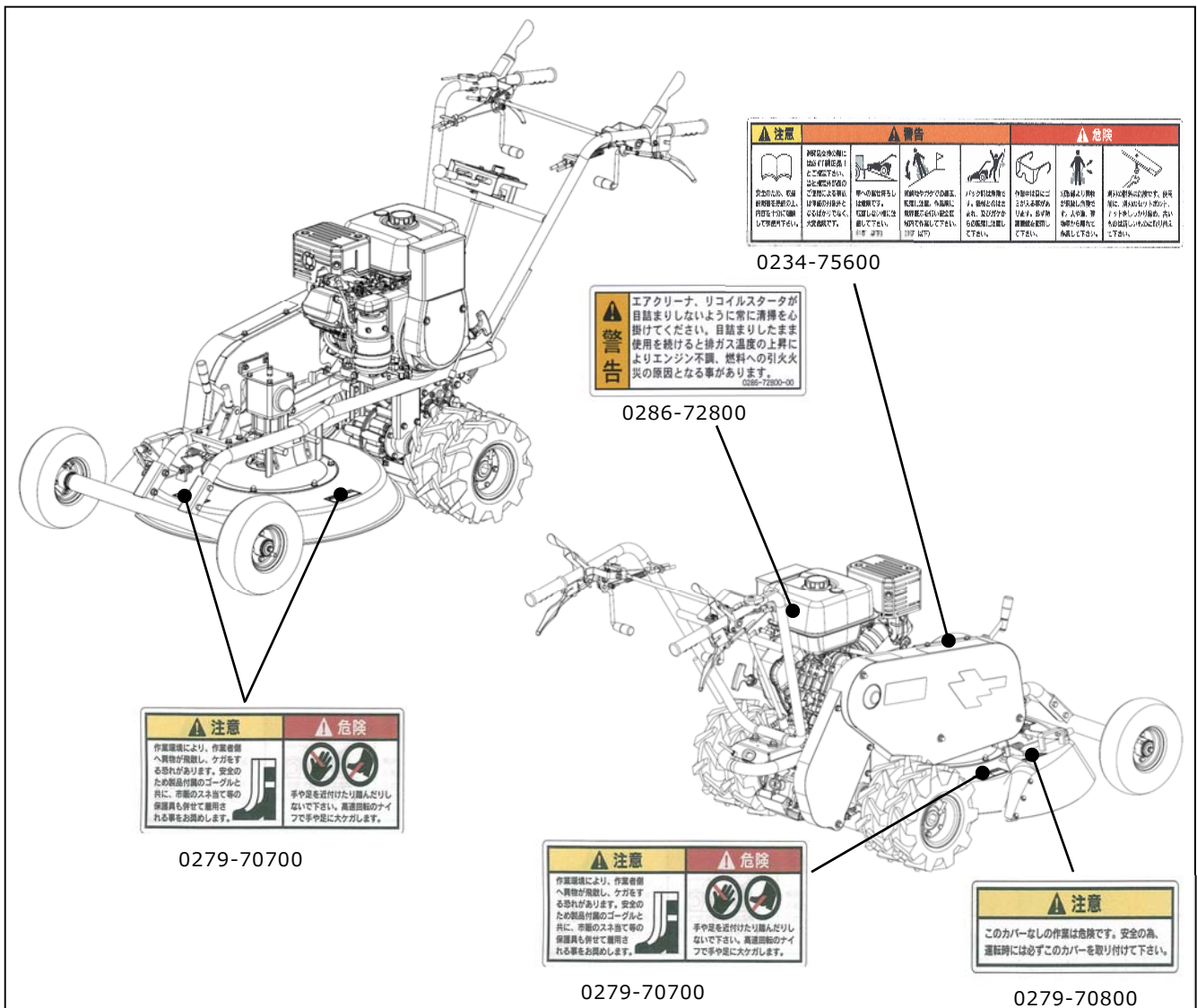
- 1) 安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。
- 2) 本機を長期保管する場合は屋内で保管ください。〈5.5 長期保管のしかた 参照〉
- 3) 本体や作業部に付いたごみや付着物・異物は取り除いてください。

## 1.7 警告表示マーク



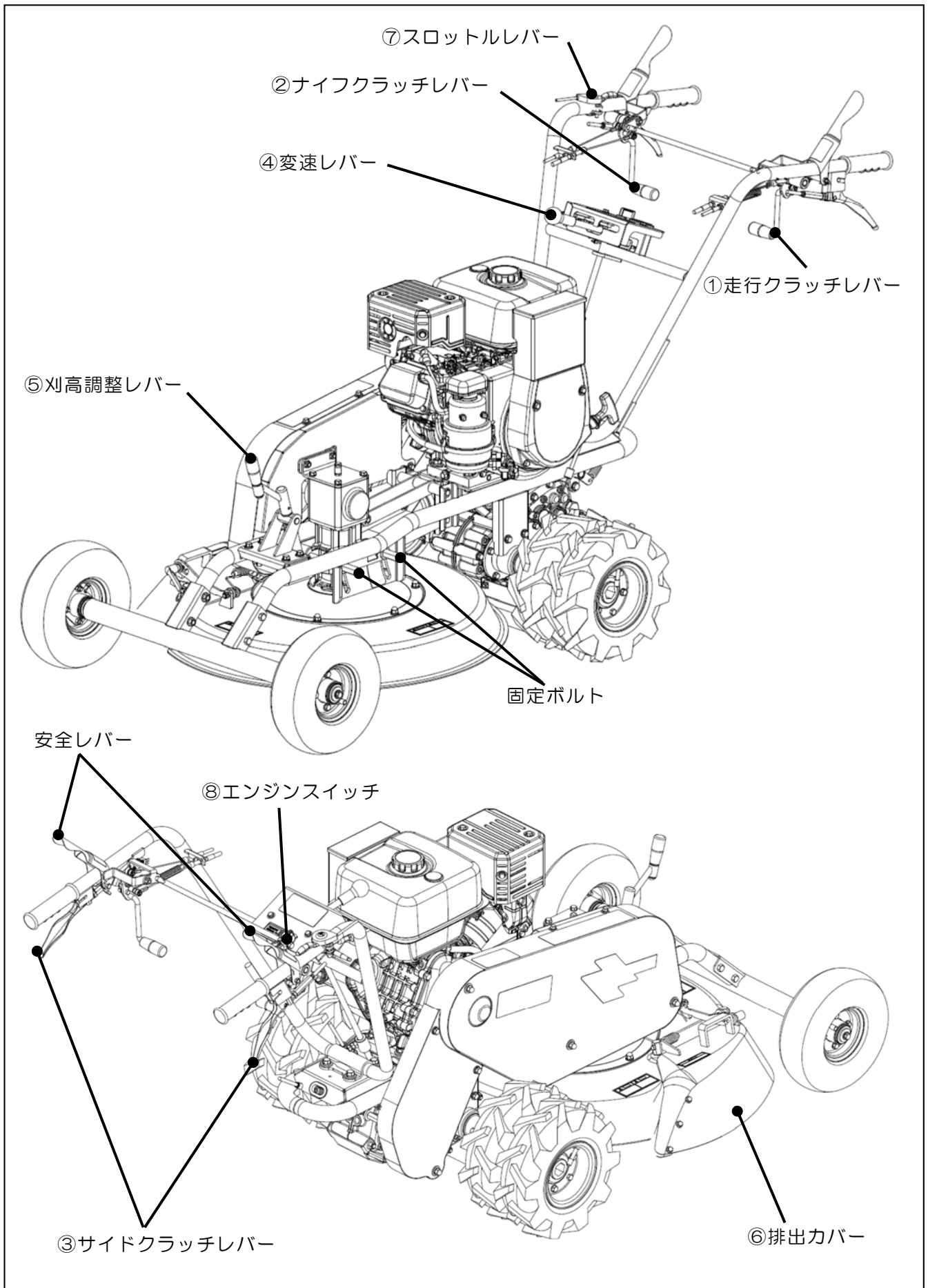
- 警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選され、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読み頂き、十分理解して必ず守ってください
- ※ 警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを販売店で購入、貼り換える等して常にはっきり識別できるようにしてください。〈6.3 消耗品明細 参照〉

### 警告表示マーク貼付箇所



## 2. 各部の名称とはたらき

### 2.1 各部の名称



## 2.2 各部のはたらき

### ① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを引き上げると「入」位置の状態、下方に押し下げると「切」位置の状態になります。

「切」位置にすると駐車ブレーキがかかり、本機は変速位置に関わらず停止します。

### ② ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを引き上げると「入」位置の状態、下方に押し下げると「切」位置の状態になります。

「切」位置にするとブレーキがかかり、短時間でナイフは停止します。

参考；

ナイフは高速で回転する為、ナイフクラッチレバーを一気に「入」位置にすると、エンストする場合があります。レバーの操作はゆっくりと行ってください。



**注意**

ナイフクラッチレバーを「入」位置にするとナイフは高速で回転します。操作方法には十分注意して下さい。

安全の為、エンジン始動時・後進時は必ずナイフクラッチレバーを「切」位置にしてください。

### ③ サイドクラッチレバー

ミッションから車軸への動力を断続させます。サイドクラッチレバーを半分握ると握った側の車軸の動力が切れ、握りこむと車軸はロックします。



**警告**

斜面での旋回作業時は、必ず山側のサイドクラッチレバーを車軸がロックするまで握りこんでください。

中途半端に握ると車軸の動力が切れて本機を山側に向けた瞬間にそのまま谷側下まで機械と一緒に滑り落ちる危険があります。

### ④ 変速レバー

走行速度の選択に操作します。それぞれの変速位置に中立「N」を挟み、前進が3段で後進「R」が1段です。

前進は「①」→「②」→「③」の順で速度が速くなります。「③」位置は移動用ですので、作業には使用できません。「③」位置でナイフクラッチレバーを「入」位置にすると、変速レバーが「②」位置に戻り、ナイフクラッチレバーを「入」位置で変速レバーを「③」位置にすると、ナイフクラッチレバーが「切」位置に戻る機構が付いています。



変速レバーの操作は必ず走行クラッチレバーを「切」位置にして、本機を停止させた後に行ってください。

走行中の変速操作は危険であるばかりでなく、故障の原因にもなります。



安全の為、変速レバーの操作は必ず平坦地で行い、特に傾斜地での作業中は絶対に変速レバーの操作は行わないでください。傾斜地で本機を山側に向けた位置で変速レバーの操作を行うと、急に“ギヤ”が抜けて中立「N」位置となり、そのまま谷底側下まで機械と一緒に滑り落ちる危険があります。

### ⑤刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。レバーを右に回すと刈高さは高くなり、左に回すと低くなります。

刈高さ調整を行うときはエンジンを停止して、全ての駆動部が停止したことを確認してから以下の手順で行ってください。

- (1) 固定ボルトを緩める。
- (2) 刈高調整レバーを回して所定の刈高さに調整する。
- (3) 固定ボルトを締める。



固定ボルトを確実に締めたことを確認して作業をしてください。固定ボルトを確実に締めないまま作業を行うと故障の原因になります。

### 参考；

刈高さを低くしすぎて作業を行うと様々な弊害の原因となります。凹凸が多い圃場では、凸の方に刈高さを合わせ、異物の噛み込みがないようにしてください。

- (1) ナイフカバーから異物が飛散して危険。
- (2) ナイフカバー内に異物が堆積し、刈取性能が低下する。
- (3) ナイフ（刈刃）の磨耗が早くなる。
- (4) 本機に無理がかかり、ベルトの早期切断等、故障の原因となる。

### ⑥排出カバー

刈り取られた草屑のほとんどがここから排出されます。ナイフの点検の際に作業がやり易い様、開閉式となっています。



作業中は必ず閉じてください。開けた状態のまま作業を行うと、石等異物の飛散が多くなり作業者は無論周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。

### ⑦スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

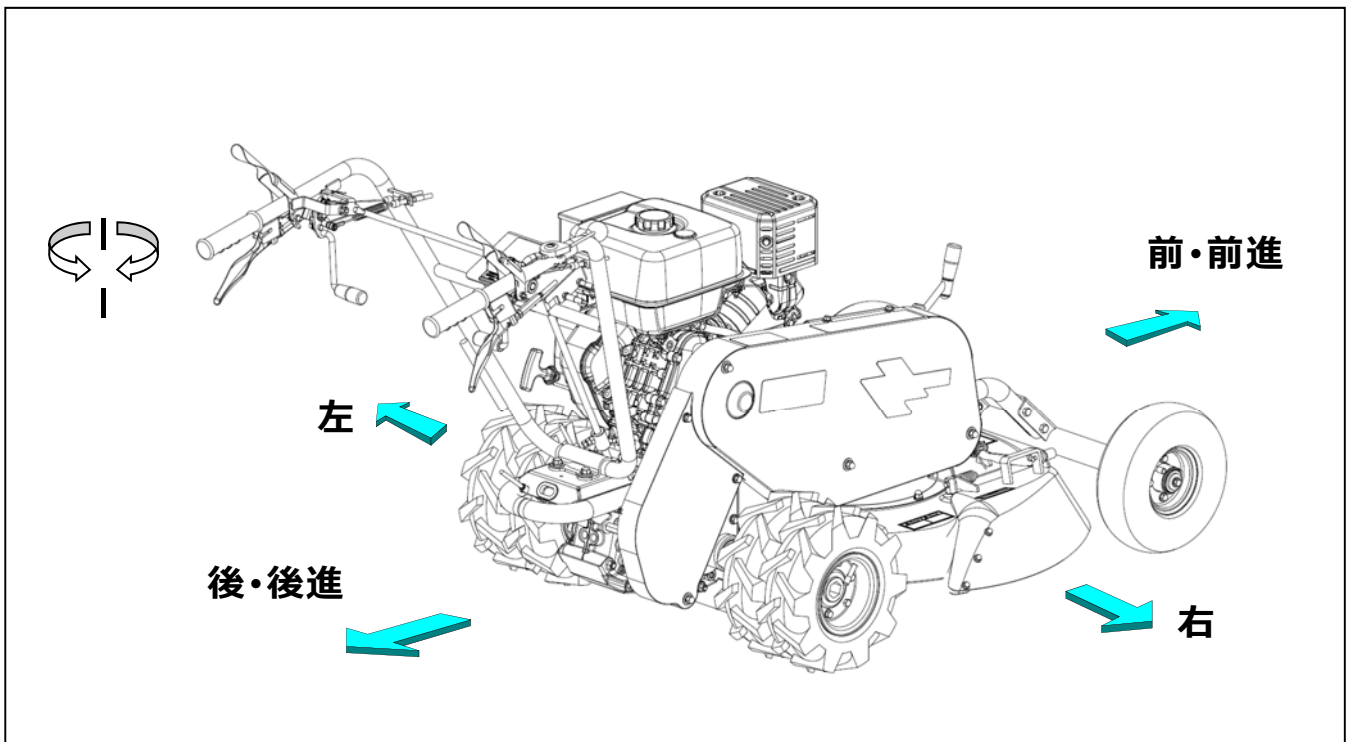
### ⑧エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行ないます。

## 2.3 方向について

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。



### 3. 作業前の点検

- 作業を始める前に「1.2 作業をする前に」を確認し、下記の「始業前点検表」及び「7.1 定期点検表」に従って始業前点検を必ず行ってください。

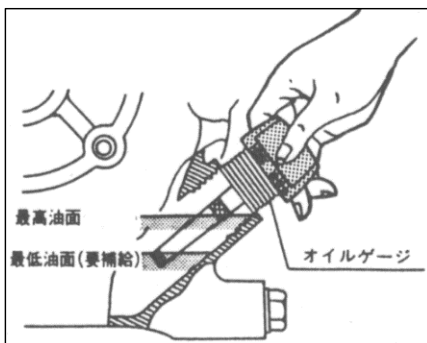
※不明な点や異常な点があれば、必ずお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

始業前点検表 (定期点検表からの要約)		
	項目	点検内容
エンジン	①エンジンオイル	「オイル量、汚れ」を確認〈3.1 参照〉
	②エアクリーナー	「汚れ」を確認、清掃〈5.2.1 参照〉
本機	①ナイフ	〈5.点検・整備 参照〉
	②ブレーキ	「1」 ボルトナットのゆるみ、脱落
	③タイヤ	「2」 変形、磨耗、干渉
	④レバー類	「3」 スムーズに動くか、固着
	⑤カバー類	「4」 ごみ、草、わら等の異物を取り除く



- 1)点検、給油、調整、整備は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 2)エンジンを始動し、走行クラッチレバー等の動作確認を実施する場合は、各レバー位置と周囲の安全を確認してから行ってください。
- 3)本機に貼られている警告表示マークも良く読んでください。

#### 3.1 エンジンオイルの点検



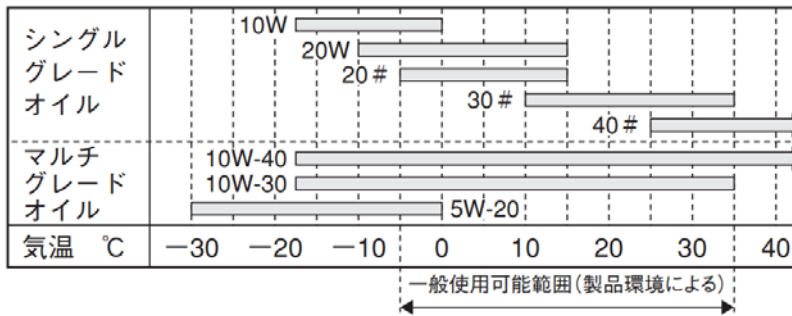
- ①本機を水平にしてオイルゲージを外します。
- ②給油口にねじ込まずに差し込んで、オイルゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認してください。
- ③少ない場合は上限近くまでオイルが来るように補給してください。注油するオイルの量はゲージを参考にしてください。



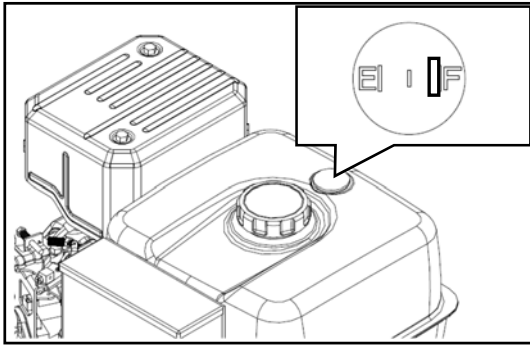
- 1)エンジンオイルの点検をエンジン運転後に行う場合は、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。
- 2)本機には出荷時、少量のエンジンオイルが残っています。  
※始動前には必ずエンジンオイル量を確認してください。
- 3)エンジンオイルは S E 級以上の良質で新しいオイルを使用し、気温によって使い分けてください。
- 4)補給後、オイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けが緩いとエンジンオイルが漏れ出す恐れがあります。



## 「推奨オイル」



## 3.2 燃料の点検・給油



- ①本機を水平にして燃料計で燃料の量を点検します。
- ②少ない場合は左図を参照に F 手前ラインを給油限度として給油口から、こぼれない様に燃料を補給してください。  
〈使用燃料：無鉛レギュラーガソリン〉  
〈燃料タンク容量：6.1 仕様参照〉
- ③補給後は燃料給油キャップを確実に締付けてください。

※傾斜地での使用は、②よりさらに少なく(こぼれない量に)してください。

※ E 手前ラインに近づいたら早めに燃料を補給してください。

**危険**
1) 作業中及び給油中は火気厳禁です。

引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対に行わないでください。

## 2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。

3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

**警告**

平坦な安定した、換気の良い場所で行ってください。

**注意**

1)燃料を補給する場合は、ほこり・草・雨・雪などの異物が燃料タンク内に入らないようにしてください。エンジン不調の原因になる恐れがあります。

2)無鉛レギュラーガソリン以外は使用しないでください。エンジンに損傷を与える原因になります。

3)ガソリンは自然劣化します。一ヶ月以上使用しない場合は新しいガソリンと入れ替えてください。またポリタンクに保管したガソリンも使用しないでください。不調の原因となることがあります。

## 4. 運転・作業のしかた

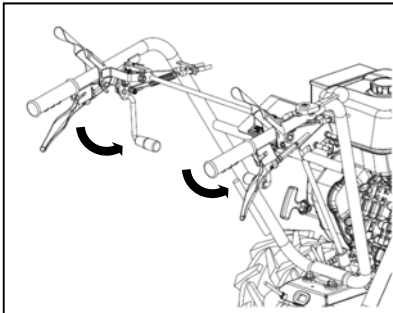


※「1. 使用上の注意」を運転する前に、必ずお読みください。

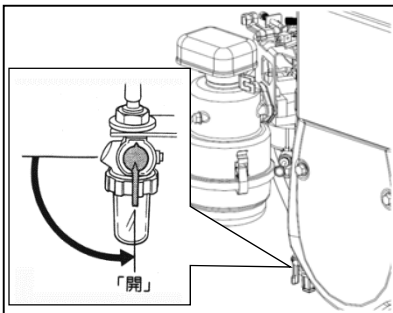
特に、「1.1 作業条件」「1.2 作業をする前に」「1.3 作業中は」をよく読み、理解したうえで運転・作業を行ってください。

### 4.1 エンジンの始動・停止のしかた

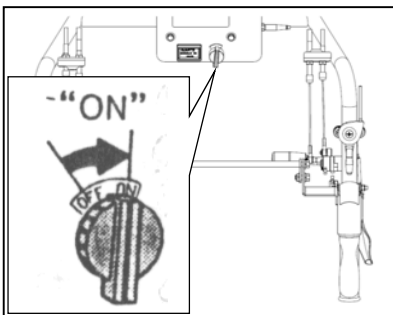
#### 4.1.1 エンジン始動のしかた



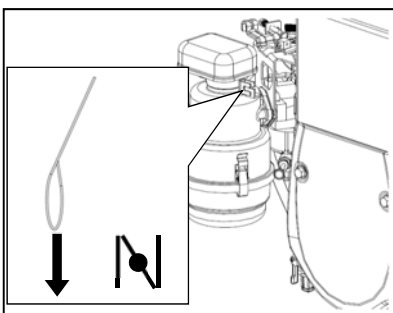
① 走行クラッチレバー・ナイフクラッチレバーはいずれも「切」位置にしてください。



② 燃料コックを「開(ON)」位置にしてください。



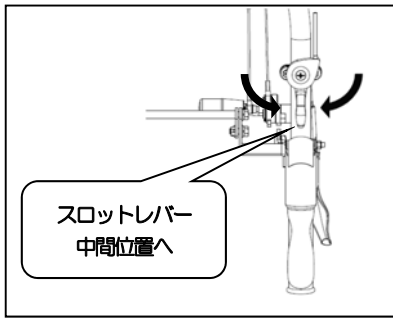
③ エンジンスイッチを「運転(ON)」位置にしてください。



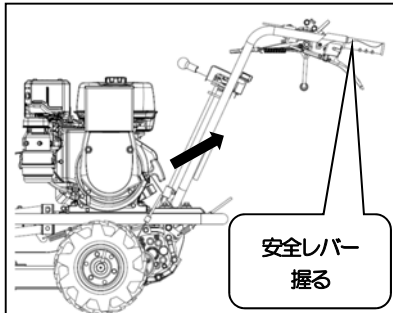
④ チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にしてください。

参考；エンジンがあたたまっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。

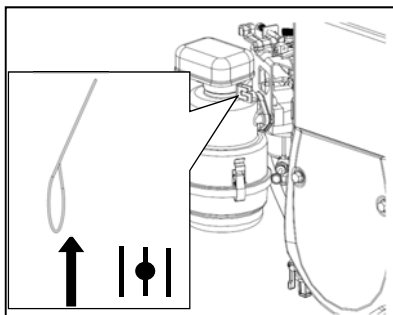
## 4. 運転・作業のしかた



⑤スロットルレバーを「高」と「低」位置の中間位置にしてください。



⑥安全レバーを握り、スタータノブをゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張ってください。エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻してください。

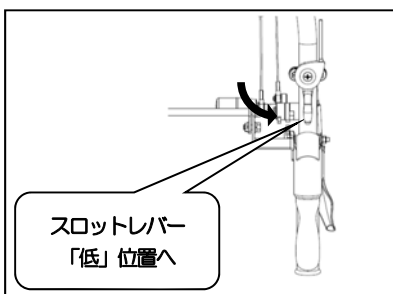


⑦エンジン始動後はチェークレバーを戻し、チョーク弁を「全開」|●|位置にしてスロットルレバーを低速「低」位置でしばらく（5分程度）の暖機運転を行ってください。暖機運転を行うことにより、エンジンの寿命を延ばします。

### ⚠ 注意

- 1)新製品購入後、最初の一週間(3~4時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。
- 2)チョークレバーを「全閉」|●|位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

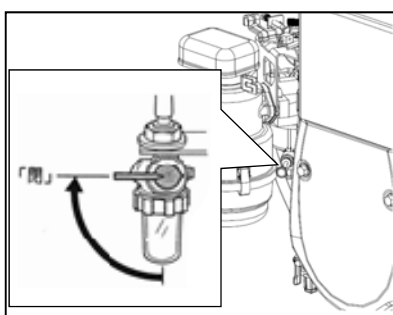
### 4.1.2 エンジン停止のしかた



①スロットルレバーを「低」位置にし、安全レバーを離して、エンジンスイッチを「停止(OFF)」位置にしてください。

### ⚠ 注意

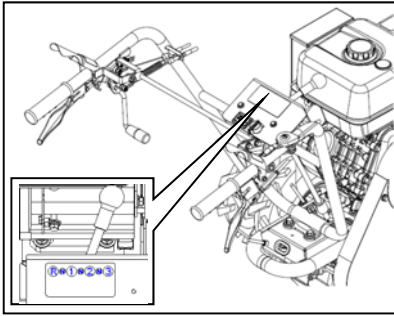
安全レバーを離すとエンジンは停止します。



②最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

## 4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた

### 4.2.1 走行のしかた

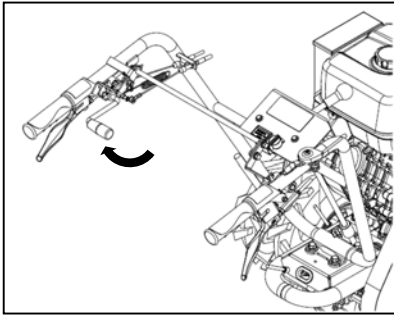


①変速レバーが確実に入っているか、確認してください。

〈4.2.2 変速のしかた 参照〉

②エンジンを始動させてください。

〈4.1.1 エンジン始動のしかた 〉



③スロットルレバーを「高」と「低」との中間位置にし、走行クラッチレバーを引き上げると走行します。



#### 警告

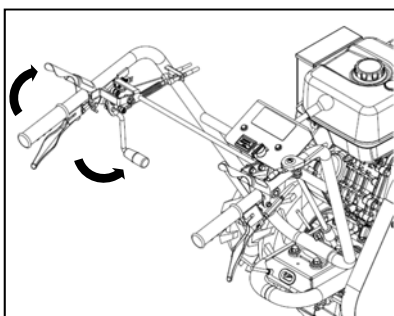
- 1)安全のため、走行の際は刈取部が石やその他の障害物に接触しない位置へ調整してください。
- 2)走行、旋回の際にはナイフクラッチレバーは「入」位置にしないでください。巻込まれ危険です。
- 3)スロットルレバーは「高」と「低」との中間位置で走行をはじめ徐々に全開に操作してください。「高」位置からスタートすることは機体が急発進し危険です。



#### 注意

- 1)所有者以外の人には使用させないでください。
- 2)走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進してください。
  - ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意してください。
  - ・車輪接地面の勾配が20度を超える傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用は避けてください。

### 4.2.2 変速のしかた



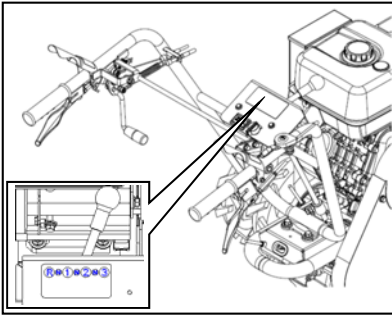
①安全レバーを離して走行クラッチレバーを「切」位置にして本機を停止してください。



#### 注意

走行クラッチレバーが「入」位置のままで変速レバーの操作を繰り返し行くと、故障の原因になります。

## 4. 運転・作業のしかた

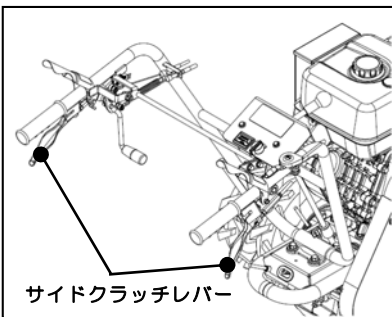


- ②変速レバーを操作し、「①」「②」「③」「R」の所要の変速位置に確実に入れてください。

### 参考；

- 1)ギヤが入りにくい時には、無理に入れずに走行クラッチレバーを「入」方向に少し移動させるか本機を前後に振ってみて、確実に変速操作を行ってください。
- 2)高速「③」位置は移動用です。高速のため作業は出来ません。

### 4.2.3 旋回のしかた

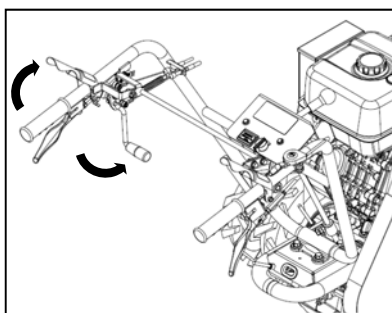


- ①旋回する側のサイドクラッチレバーを握ります。レバーを握った方の後輪がロックされて旋回方向へ車体が旋回します。

### 参考；

旋回する場合には、前輪を浮かして旋回方向にハンドルを押しようにするとスムーズに旋回できます。

### 4.2.4 停止のしかた



- ①安全レバーを離して走行クラッチレバーを「切」位置にして本機を停止してください。同時に駐車ブレーキが掛かり、機体は停止します。
- ②エンジンを停止してください。  
(4.1.2 エンジン停止のしかた 参照)

### 注意

- 1) 本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車してください。
- 2) 走行クラッチレバーが「切」位置では、変速レバーの位置に関わらず、駐車ブレーキが効いています。高速位置での移動中、いきなり走行クラッチを「切」位置に戻すと急ブレーキが掛かり本機は急停止し危険です。スロットルレバーを「低」位置にして車速を落としてから停止してください。
- 3) 本機を離れるときには、必ずエンジンを停止してください。
- 4) 両側のサイドクラッチレバーを半分握るとエンジンを停止した状態で押して移動が出来ます。  
(走行クラッチレバー「切」位置)

## 4.3 上手な作業のしかた

**警告**

- 1)安全のため、本機右側の排出カバーは必ず閉じて、また標準で装着されているカバー類は必ず装着して作業を行ってください。開けたまま或いは取り外したままの作業は大変危険です。  
石等異物が刈取部全周にわたり飛散し、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 2)傾斜地で両側のサイドクラッチレバーを同時に中途半端に握ると本機が急に斜面谷側に暴走し巻き込まれる危険があります。サイドクラッチレバーは必ず片側ずつ確実に操作してください。
- 3)カバー類に変形または破損がある場合は、必ず作業開始前までに修正、交換を済ませてください。
- 4)圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度 20 度)のあるところ、地面の凹凸等、危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意してください。
- 5)ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 6)作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径 10 m 以内にこれらのものを近づけないでください。
- 7)本機装着のカバー類は、刈取部からの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物(切株、石、針金、空缶、棒切れ)等の除去は、作業者の責任で確実に実施してください。

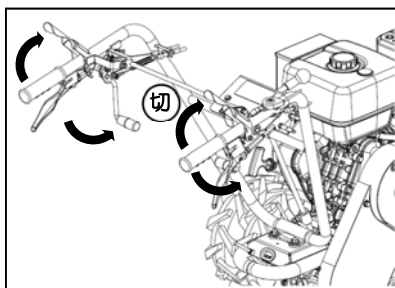
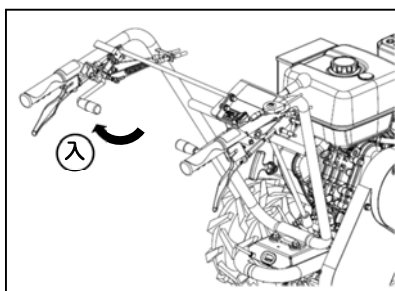
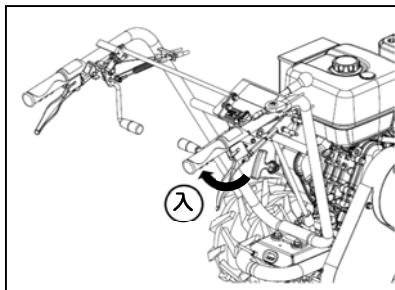
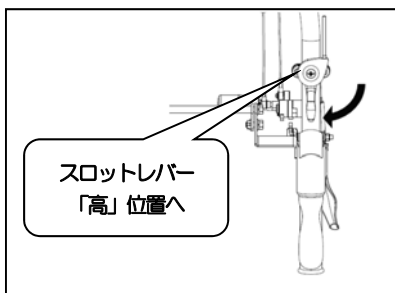
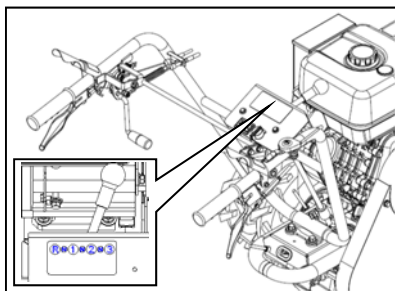
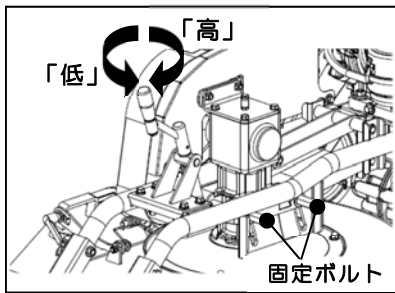
**注意**

- 1)作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子またはヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用してください。
- 2)切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いてください。
- 3)石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等して、安全には十分注意してください。
- 4)刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散する恐れがあります。人や車、建物から離れて十分ご注意の上作業してください。
- 5)本機運転中のエンジンマフラは高温になり、誤って触ったりすると火傷の危険があります。運転中及び運転停止後約 10 分の間マフラには絶対に触らないでください。
- 6)作業は必ず前進で行ってください。後進での作業は危険です。

**参考；**

- 1)初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈ってください。
- 2)刈草は、本機右側の排出カバーから吐き出されます。障害物に対しては、常に本機をその右側に位置させてください。

## 4.3.1 草刈作業のしかた



- ①作業状況に合わせて、刈高調整レバーを回して刈高さを調整してください。調整後、固定ボルトは確実に締め付けてください。



刈高さ調整は必ずエンジンを停止してから行ってください。刈高さは、圃場内の凸部に合わせてください。低すぎると異物及び土との摩擦により、ナイフが早期に磨耗もしくは破損するばかりでなく、破損による事故の恐れがあります。

- ②エンジンを始動してください。  
 〈4.1.1 エンジン始動のしかた参照〉
- ③変速レバーを「①」または「②」作業位置にしてください。
- ④スロットルレバーを「高」位置にしてください。
- ⑤ナイフクラッチレバーを「入」位置まで引き上げてください。  
 **ナイフが高速で回転しますので、十分に注意してください**
- ⑥走行クラッチレバーを引き上げると発進し、作業を開始します。  
 〈4.2.1 走行のしかた 参照〉
- ⑦作業を終了する場合には、安全レバーを離してください。  
 走行クラッチレバーが「切」位置に戻り機体が停止します。  
 ナイフクラッチレバーが「切」位置に戻りナイフが停止します。
- ⑧エンジンを停止してください。  
 〈4.1.2 エンジン停止のしかた 参照〉

参考；

ナイフクラッチレバーを「切」位置にすると、ブレーキがかかりナイフの回転は数秒（5秒以内）で停止します。

### 4.3.2 傾斜地での作業のしかた

- 傾斜地での作業は、斜面の谷側から山側へ向かって等高線に沿って作業を行い、順次山側へと移行してください。旋回はできるだけ両端の傾斜角度の緩い場所で、山側のサイドクラッチレバーを握り、山側に向かって旋回し∞の字を描くようにして作業してください。



- 1)変速操作は必ず平地で行ってください。傾斜地作業中の変速操作は旋回時のギヤ抜けの原因となり、転落事故の恐れがあります。
- 2)エンジンに草、木の葉等を堆積させないでください。これらのものがエンジンの周辺に堆積するとオーバーヒートによる焼付きや火災の原因になる場合があります。また、草刈性能の低下及び燃料消費量のアップの原因にもなります。こまめに掃除してください。
- 3)安全のため、最初は「①」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件にあった作業速度にしてください。
- 4)旋回は必ず山側のサイドクラッチを握り、山側へ旋回してください。谷側のサイドクラッチを握り谷側へ旋回しようとする、そのまま谷側下まで機械と一緒に滑り落ちる恐れがあります。
- 5)ナイフの回転中はロータリーカバー内側いっぱいまでナイフがきますので、絶対に草等をロータリーカバー内に足等で蹴り入れないでください。
- 6)作業中に障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止する為点火キャップを点火プラグから外した上で損傷を調べてください。異常はすぐに修理してください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

#### 参考；

- 1)草の量が多く、頻繁にエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈高さを高くするか、二回刈りをしてください。



## 4.4 積み降ろし及び運搬

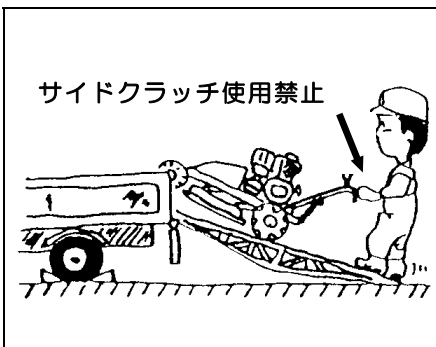


- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) 必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。  
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

## 4.4.1 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
- ② 基準にあったブリッジをゆるい勾配（15度以下）で、また、製品に合わせた幅で、確実にかけてください。
- ③ 本機の車輪がブリッジの中央に位置するようにしてください。
- ④ エンジン回転を下げ、作業クラッチは「切」にしてください。
- ⑤ 積み込みは前進「①」で、降ろす時には「R」で低速でゆっくり行ってください。

## 参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用してください。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分たえるもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

## 5. 点検・整備・調整

### 5.1 オイルの点検・交換・注油

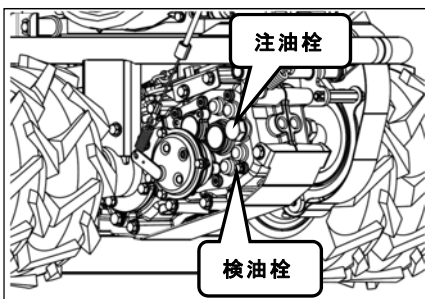


- 1) ご使用前には必ず指定のオイルが指定の量だけ注油されているか確認して下さい。
  - 2) 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
  - 3) 注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとすると、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。
  - 4) 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後に停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを「約5分以上」待ってから作業を行ってください。
- … エンジン停止後、すぐに作業を行うと …
- \* エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
  - \* エンジン停止直後は各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の廃油は、お住まいの地方公共団体の取り決めに従い適切に処理をしてください ■

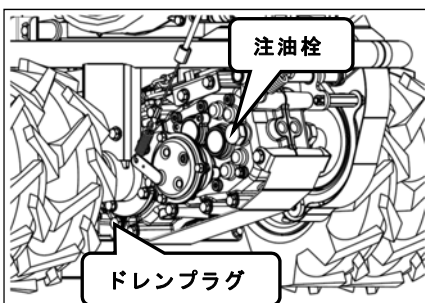
#### 5.1.1 ミッションオイルの点検・交換

◎ 点検・補給… 注油量を厳守ください。



- ① ミッションケース左側上部の検油栓(検油口)を取外し、検油栓からオイルがにじみ出てきたら、ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。
- ② オイルの量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給または全量交換(下記参照)します。

◎ 交換…



- ③ オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ④ ミッションケース左側面下部(車軸下部)のドレンプラグ(廃油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。

参考;

同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。

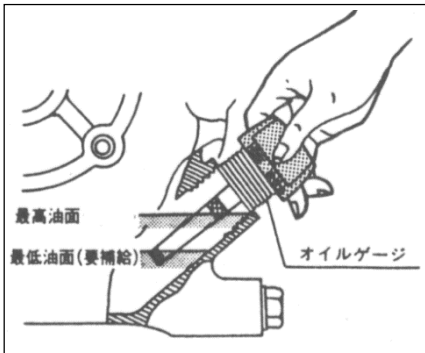
- ⑤ ドレンプラグを確実に取り付けした後、ミッションオイル(#90)を1.6ℓ注油してください。

#### 交換の目安

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎

## 5.1.2 エンジンオイルの点検・交換

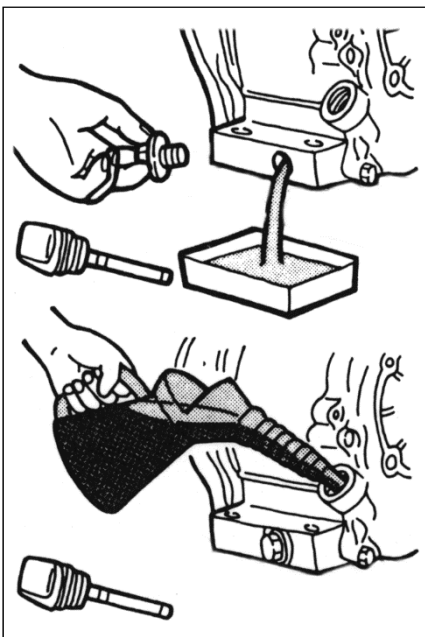
## ◎点検・補給…



①毎運転前に〈3.1 エンジンオイルの点検〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給または全量交換（下記参照）してください。

〈使用するオイルの質・量は 3.1 エンジンオイルの点検 参照〉

## ◎交 換…



②オイルを受け取る適当な容器を用意します。

③エンジン側下部にあるドレンプラグ（排油栓）を取り外し、クランクケース内のオイルを抜取ります。

## 参考；

同時に給油栓も取り外しておく、と、オイルが抜き取りやすくなります。

④オイル排出後、ドレンプラグを確実に取り付けてください。

⑤〈3.1 エンジンオイルの点検〉を参考に指定のエンジンオイルを注油してください。

## 交換の目安

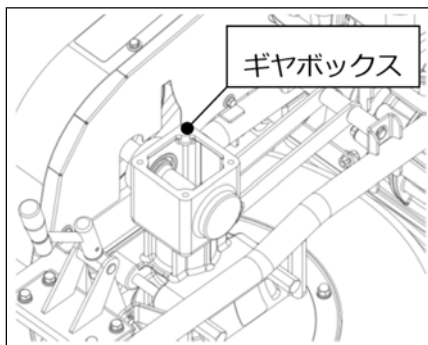
初回：5 時間目、2 回目以降：2 5 時間毎

## 参考；

- 1) オイル交換後は取り外したカバー、ドレンプラグ、給油栓を確実に取付けてください。
- 2) 高負荷または高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行してください。

## 5.1.3 ギヤボックスのグリス交換

## ◎交 換…



- ①ギヤボックスの蓋を開けて古くなったギヤグリスを取り除いてください。
- ②ギヤグリス#00 番相当品（140～150 ㏄）を入れてください。

## 交換の目安

1 年もしくは 100 時間毎

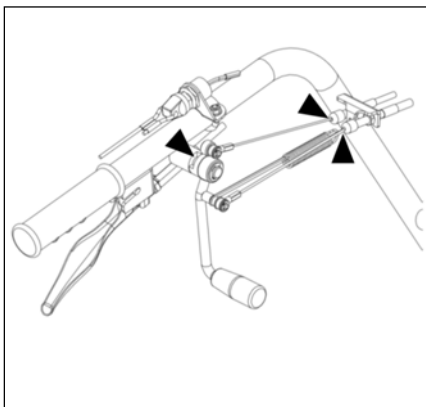
## 5.1.4 可動部への注油



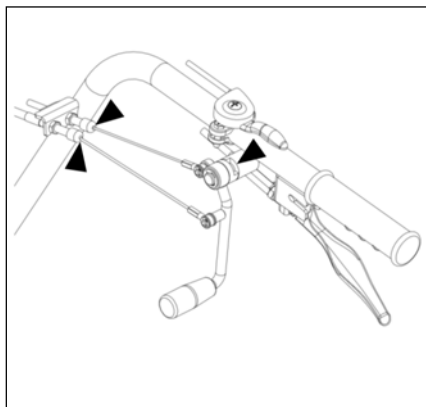
## 注意

- 1) 約 30 時間毎にグリスニップル部にはグリスを、その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油してください。特に、グリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

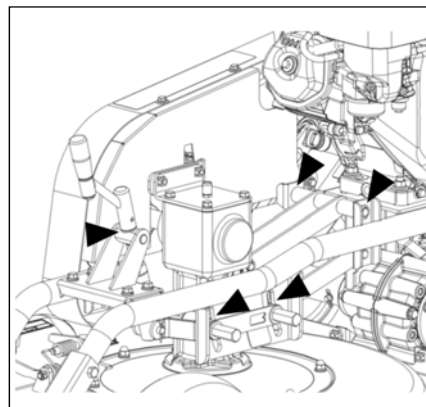
各ワイヤ・走行レバー軸部



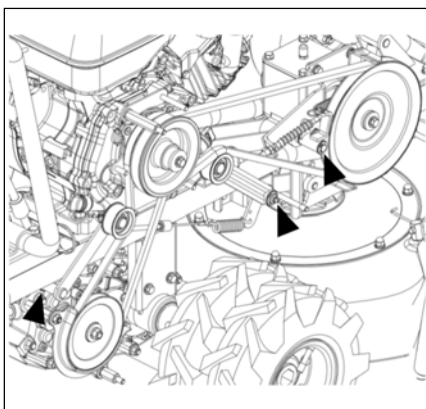
各ワイヤ・ナイフレバー軸



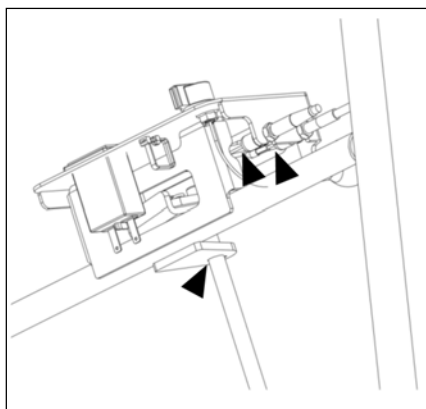
刈高調整レバー・リンク軸部



テンション軸・ブレーキ軸部



各ワイヤ・チェンジ軸部



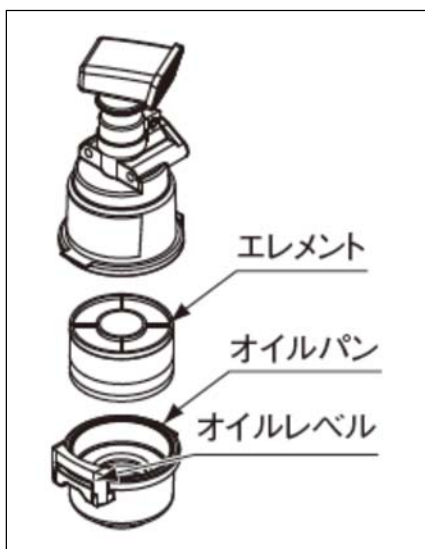
## 5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整

### 5.2.1 エアクリーナの清掃



- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃してください。  
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないでください。…  
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

#### ■ 湿式（オイルバス式）



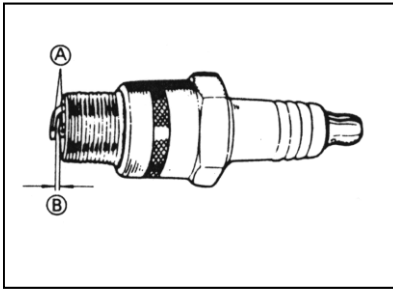
- ①クランプを外し、オイルパンを外してください。
- ②オイルパン内の泥、草屑等を灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイルをレベル線まで入れてください。
- ③エレメントは、白灯油（又は中性洗剤）で洗浄後よく絞り、乾燥させてください。
- ④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおりに組み付けてください。

エアクリーナの点検・清掃、交換次期について		
	点検・清掃	交換
エレメント	毎運転前	100 時間毎
エアクリーナオイル	毎運転前	50 時間毎

#### 参考；

- 1)洗浄時、エレメントを強く引っ張ったりもんだりしないでください。エレメントが破れ使用できなくなります。
- 2)チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けてください。

## 5.2.2 点火プラグの点検・調整



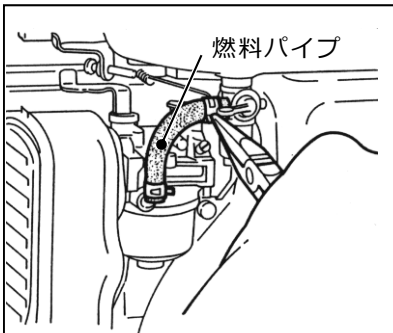
- 1) プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分④にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取ってください。
- 2) 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換してください。
- 3) 点火プラグの電極隙間⑤を 0.6～0.7mm に調整してください。

参考 ; 締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用してください。

・初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意してください。

<点火プラグ基準…6.1 仕様 参照>

## 5.2.3 燃料パイプの点検



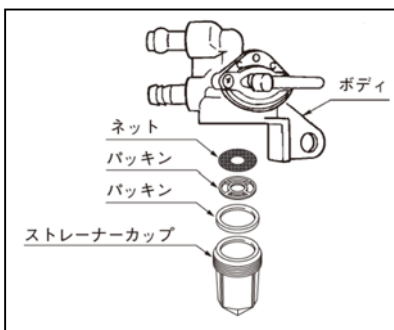
**危険**

くわえタバコや裸火での作業禁止

- 1) 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。  
締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換してください。
- 2) パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意してください。

参考 ; パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意してください。

## 5.2.4 燃料フィルタポットの清掃



**危険**

くわえタバコや裸火での作業禁止

- 1) 50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃してください。
- 2) 清掃はホコリやチリのない清潔な場所で行ってください。
  - ① 燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。
  - ② 燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させてください。



**警告**

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないでください。

## 5.3 製品本機関連の点検・調整



- 1) 点検・調整は必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止して行ってください。
- 2) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
- 3) ワイヤ・ベルトは初期伸びしますので、2～3時間運転後に再調整してください。
- 4) ワイヤ・ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換してください。  
〈ベルトサイズは 6.1 仕様 参照〉
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 調整後は、両クラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ず行ってください。
- 7) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認し、確実に締め付けておいてください。
- 8) 調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けてください。
- 9) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけてください。
- 10) 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。〈7.1 定期点検表 参照〉
- 11) 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検してください
  - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談ください。
  - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

## 5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整

## ① 走行クラッチワイヤ調整

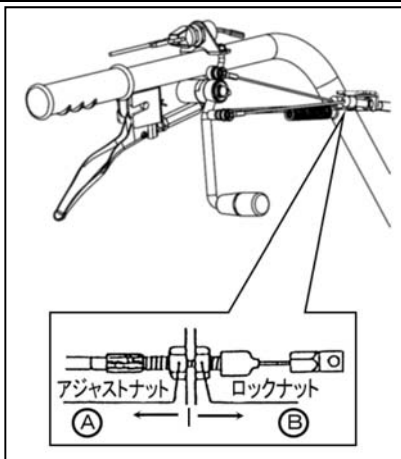


図 1 を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

□ 走行クラッチを入れても負荷がかかると本機が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□ 走行クラッチを切っても本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

## ② ナイフクラッチワイヤ調整

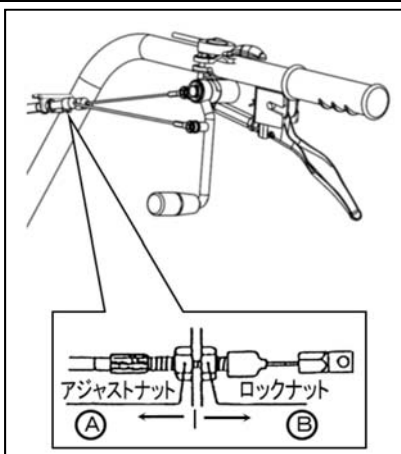


図 2 を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

□ ナイフクラッチを入れても負荷がかかるとナイフの回転が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□ ナイフクラッチを切ってもナイフの回転が停止しない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

## ③ 駐車ブレーキワイヤ調整

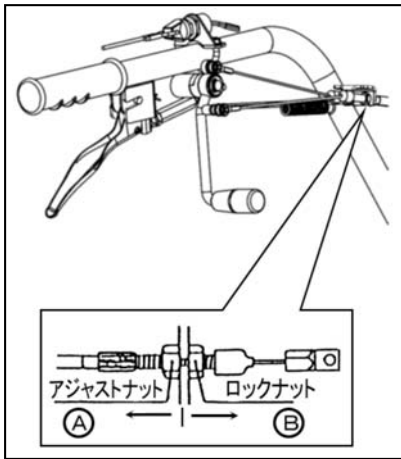


図 3 を参考に駐車ブレーキワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

□ 走行クラッチを切って駐車ブレーキの利きが甘い場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□ 走行クラッチを入れて駐車ブレーキを引きずる（解除されない）場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

## ④ ナイフブレーキワイヤ調整

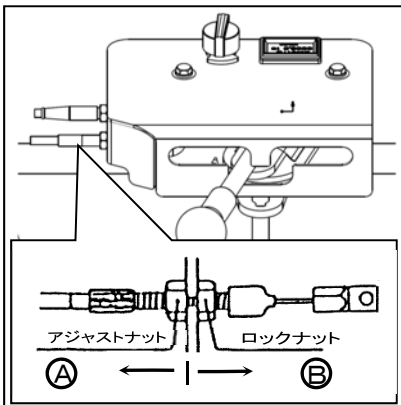


図 4 を参考にナイフブレーキワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

□ ナイフクラッチレバーを入れてナイフブレーキを引きずる（解除されない）場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

□ ナイフクラッチレバーを切ってナイフの回転が約 5 秒以内に停止しない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

**警告**

- 1) 性能維持に限らず、特に制動面に関する定期点検は安全性維持のためにも不可欠です。斜面で使用する場合は重大な事故につながる危険もありますので、必ず定期点検表に従った点検を少なくとも年に一回は製品をお買い上げの販売店にご依頼ください（有料）。
- 2) 駐車ブレーキワイヤ調整後は走行レバーを「切」位置、変速レバーを「N」位置にした状態で本機を前後に押しても動かない、または傾斜地でも動き出さないことを確認してください。

**注意**

下記作業は販売店までご依頼ください（有料）。

- 1) ブレーキも消耗します。上記方法で調整代が取れない場合には、ブレーキシューの磨耗が考えられます。また安全のため使用時間が 100 時間を越えない時点で定期交換してください。
- 2) 走行・ナイフベルトも消耗します。異常があれば新品と交換してください。調整は初回 2～3 時間目、以降 50 時間毎に行ってください。



## ⑤ キャンセラーワイヤ調整

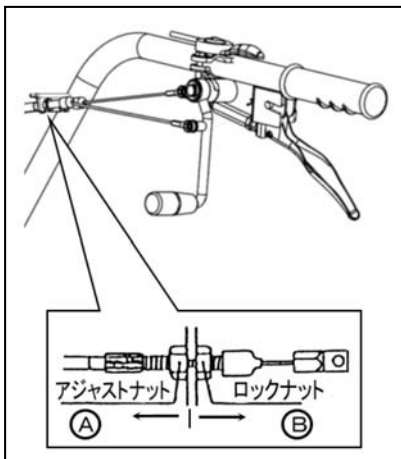


図 5 を参考にキャンセラーワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

- 「③」位置でナイフクラッチレバーを入れてもチェンジレバーが「②」位置に戻らない場合。

…アジャストナットを(B)の方向へ…

- ナイフクラッチレバーを切ってもチェンジレバーが「③」位置に入らない場合。

…アジャストナットを(A)の方向へ…

## ⑥ サイドクラッチワイヤ調整

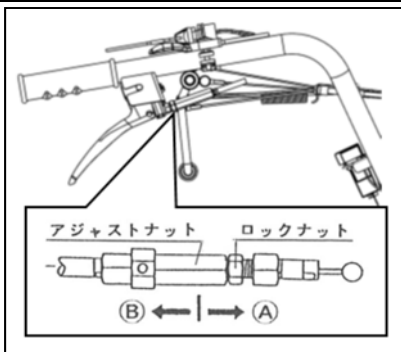


図 6 を参考にサイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

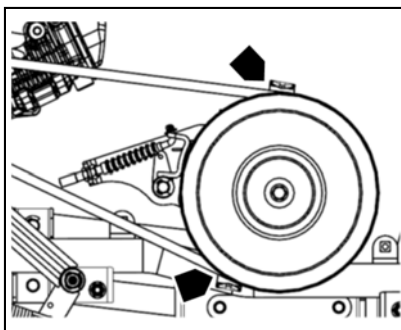
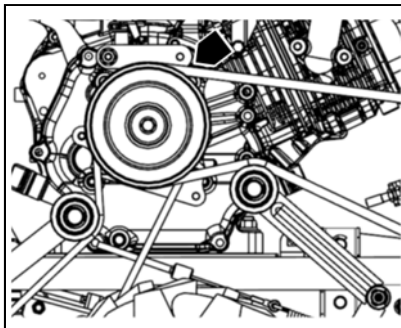
- サイドクラッチレバーを握り込んでも負荷がかかるとロックが抜ける場合。

…アジャストナットを(B)の方向へ…

- ナイフクラッチレバーを離しても負荷がかかるとサイドクラッチが抜ける場合。

…アジャストナットを(A)の方向へ…

## ⑦ ナイフベルト押さえの調整



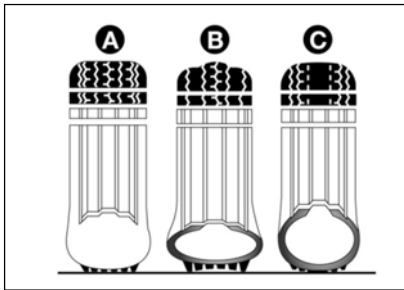
● ベルト押さえの調整は、本機ベルトカバーを取り外して行ってください。

● 目安として、ナイフクラッチレバーが「切」位置の時、ベルト押さえがベルトを軽く押さえ、ベルトがエンジンプーリの溝から軽く浮き上がる程度とします。

1) ベルト押さえの調整はナイフクラッチレバーを「入」位置で行います。この状態で、ベルトとベルト押さえの隙間が 2~3mm 程度となるようにベルト押さえの位置を調整してください。

2) ベルト押さえの位置は、プーリの約 1/3 のところが基本です。

### 5.3.2 タイヤ空気圧の調整



●タイヤの空気圧を、 $1.4\text{Kg}/\text{cm}^2$ に調整してください。空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

●外観から判断する目安は左図の通りです。

A：適正 B：不足 C：過剰

### 5.4 ナイフの点検・交換

■安全のため、ナイフの作業前点検を行ってください。■



**警告**

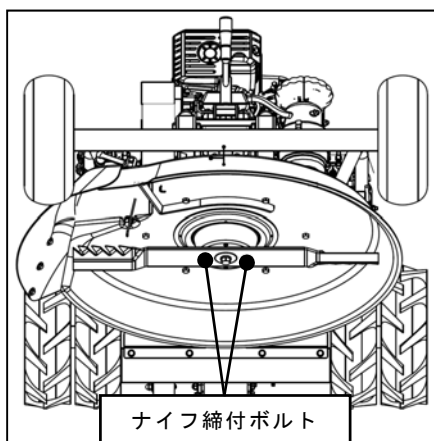
- 1) 本機には鋭利なナイフが使用されています。点検・交換時は刃先にウエスを巻く等し、丈夫な手袋（皮手袋等）を使い絶対に素手で直接ナイフに触らないでください。ケガをする恐れがあります。
- 2) ナイフを交換する際には必ずメーカー純正品とご指定ください。社外ナイフの使用は危険であるばかりでなく、使用による故障・事故についても保証の対象外となります。
- 3) この作業は必ず二人で行い、作業中刈取部が落下しないようハンドルをしっかりと支えながら行ってください。
- 4) 前回の作業時に、縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフの曲がりや欠損が生じていないか、ナイフが摩耗していないか、作業開始前に点検してください。
- 5) ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、重大な人身事故を招く原因や、本機破損の原因となる場合があります。



**注意**

- 1) ナイフの交換作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。
- 2) ナイフ締付ボルトも摩耗します。ナイフの交換の際にはナイフ締付ボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないでください。

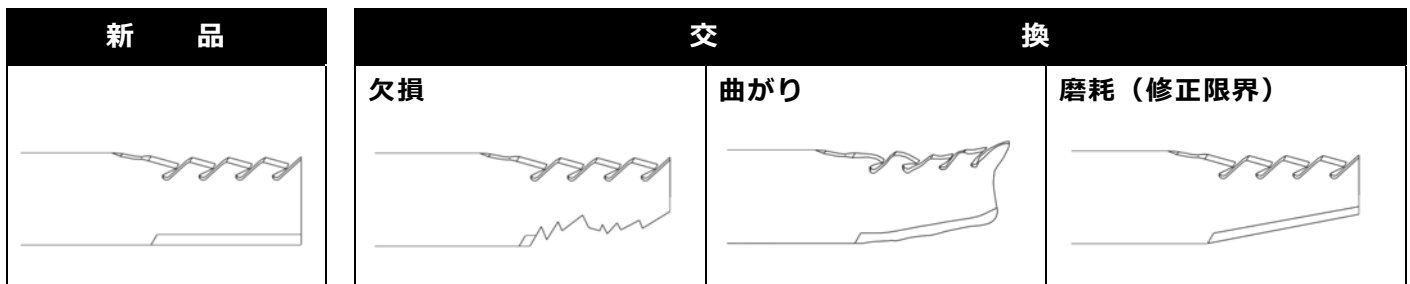
#### 5.4.1 ナイフの点検・交換



- ①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外してください。
- ②もう一人の人に本機のハンドルを押し下げてもらい、刈取部分を上げて作業中保持してもらってください。
- ③ナイフの割れ、曲がり、摩耗を点検してください。
- ④ナイフ締付ボルトの取付け状態を点検してください。

※締付トルク  $100\text{N}\cdot\text{m}$  ( $980\text{kg}\cdot\text{cm}$ )

※下図の様に異常な状態になっていたら、ナイフを交換してください。



参考；

- 1) 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの磨耗が早いため、頻繁に点検してください。
- 2) 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

## 5.5 長期保管のしかた

### 5.5.1 長期保管の準備

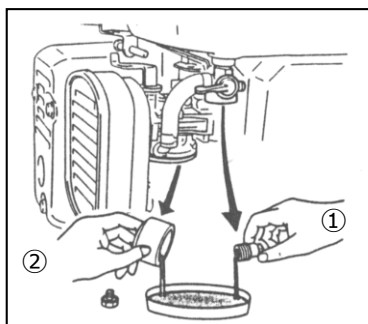
- 燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期保管すると、  
→再始動困難や出力低下等のトラブルの原因となります。 □



#### 危険

- 1) 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意してください。
- 2) 燃料タンク内のガソリンを抜く時、または本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにしてください。

- 1)本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、または運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取ってください。



#### ①燃料タンク内の燃料

燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にして抜き取ってください。

#### ②気化器内の燃料

気化器下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いてください。

③安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。

- 2)各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいてください。

- 3)各給脂・注油箇所に注油をして、不具合箇所は修理しておいてください。

- 4)屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管してください。

- 5)本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。（\*本機カバーは付属していません。）

### 5.5.2 次回使用時の注意



- 1) 新鮮な燃料を使用してください。
- 2) 作業前の点検を行ってください。
- 3) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
- 4) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認してください。
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけてください。

## 6. 付表

## 6.1 仕様(参考数値)

名 称		ロータリーモア						
型 式		R 6 3 A W 2						
全長×全幅×前高(mm)		1,860×850×925						
刈 幅(mm)		630(平面作業時)						
重 量(kg)		130						
刈 高(mm)		20~80						
ナ イ フ(枚)		アリゲータナイフ×1						
ベルト(本)	走 行	SA-38×1						
	刈 取	SB-56W800×1						
タイヤサイズ		前輪：350-4 後輪：350-5						
操行装置		サイドクラッチ式（ロック付）						
速 度 (km/m)	前 進	①	2.5	②	4.2	③	6.8	(直進時)
	後 進	① 1.9 (直進時)						
クラッチ 方式	走 行	ブレーキ連動ベルトテンション						
	刈 取	ブレーキ連動ベルトテンション						
ミッションオイル(ℓ)		1.6 (#90)						
エ ン ジ ン	名 称	ミツビシ						
	型 式	GB290PN						
	排気量(cc)	296						
	潤滑油量(ℓ)	1.0						
	始動方式	リコイルスタータ						
	点火プラグ	BP5ES						
	タンク容量(ℓ)	6.0						

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

## 6.2 工具袋・同梱品明細

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	両口スパナ	10×12	1	
	〃	14×17	1	
5.	片口メガネレンチ	17	1	
6.	ゴーグル	防曇タイプ	1	

## 6.3 消耗品明細

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ナイフ	0234-51130	1	
2.	ナイフ (ストレート)	0267-80800	1	オプション
3.	走行ベルト	89-6122-003801	1	SA-38
4.	ナイフベルト	89-6123-005602	1	SB-56W800
5.	ナイフクラッチワイヤ	0267-73100	1	
6.	走行クラッチワイヤ	0267-73200	1	
7.	ナイフブレーキワイヤ	0267-70300	1	
8.	駐車ブレーキワイヤ	0267-73400	1	
9.	サイドクラッチワイヤ	0267-70500	2	
10.	キャンセルワイヤ	0267-73300	1	
11.	スロットルワイヤ	0267-77600	1	
12.	ナイフ締付ボルト(8T)	0223-71300	2	M12×25P/1.25 (メック)
13.	バネ座金Φ12	89-1750-120002	2	
14.	危険ラベル	0279-70700	3	手や足を…
15.	注意ラベル	0279-70800	1	このカバーなし…
16.	警告ラベル	0234-75600	1	安全の為…
17.	エアクリーナーメンテ警告ラベル	0286-72800	1	エアクリーナー、…
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				

## 7. 点検表

## 7.1 定期点検表

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検を行ってください。


★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業前に毎回点検を行ってください。

項目	点検項目	確認項目	確認	始業	月次	年次	
制動装置	ブレーキ (該当製品)	駐車ブレーキの利き具合	ひきずりは無い、甘くないか	ブレーキシュー	○	○	○
		ブレーキロッド ジョイント	変形、ガタはないか	ロッド ジョイント	○	○	○
		Uナット Wナット	緩み、脱落はないか	Uナット Wナット	○	○	○
		割りピン	欠落、欠損はないか	割りピン	○	○	○
刈取部	カバー	カバーの状態	曲がり、亀裂、腐食はないか、 ワッパゴムの取付状態は適切か	カバー フラップ	○	○	○
		回転部	ナイフ&ステア (爪) および取付状態 (該当製品)	反り、摩耗はないか	ナイフ ナイフステア	○	○
			ボルト・ナットに緩み、摩耗、脱落はないか	ボルトナット	○	○	○
		ナイフブレーキ	ブレーキの利き具合 (5秒以内で停止するか)	ブレーキ	○	○	○
エンジン	本体	加速、排気、チョーク の作動状態	加速はスムーズか、排気色、臭いは正常か、 チョークの操作はスムーズか	加速 排気 チョーク		○	○
		マフラ、バッテリー	周囲にごみ、草等の詰まりはないか、 取付に緩みはないか、腐食はないか、 バッテリーの充電状態はよいか	マフラ バッテリー	○	○	○
		エンジン本体	エンジン取付に緩み、亀裂はないか	取付	○	○	○
		エアクリーナ	汚れ、目詰まり、破れ、スリ切れ等はないか	エアクリーナ	○	○	○
	潤滑油	エンジンオイル オイルフィルタ (該当製品)	量、質、漏れ、異物の混入はないか、 交換時期は適切か	オイル フィルタ	○	○	○
		【エンジンオイル：取扱説明書参照】					
	燃料系	燃料チューブ、フィルタ	燃料漏れ、劣化、変形、目詰まりはないか	燃料経路	○	○	○
	点火系	点火プラグ	碍子に亀裂、電極間にカーボンの堆積はないか	プラグ		○	○
		高圧コード、プラグキャップ	劣化、亀裂、キャップに割れはないか	コード		○	○
	冷却系	エンジンハウジング	ハウジング内に草屑等の堆積はないか	カバー内		○	○
	配線	ハーネス	緩み、損傷はないか	ハーネス		○	○
	伝達系	ベルト	走行、ナイフベルト	張り具合、亀裂、損傷、著しい汚れはないか	走行 ナイフ	○	○
ミッションオイル			量、質、油漏れ、異物(水分、エア)の混入	Mオイル		○	○
減速油圧		【ミッションオイル：初回20H。それ以降、100Hで交換】					
		HSTオイル (該当製品)	量、質、油漏れ、異物(水分、エア)の混入	Hオイル	○	○	○
【HSTオイル(VG46相当)：初回「各、取扱説明書を参照」。 それ以降は200H、または年1回交換。(HSTオイルフィルタも同時に交換)】							
可動部	レバー・ワイヤ等の可動状態 (デフロック・副変速は該当製品)	作動はスムーズか 固着、錆付きはないか	デフロック	○	○	○	
			刈取	○	○	○	
			副変速	○	○	○	
変速	変速レバー	作動、N位置は適切か、緩み、ガタはないか	レバー	○	○	○	
走行部	タイヤ (クローラー)	エア圧は適切か、損傷及び偏摩耗はないか	タイヤ	○	○	○	
	取付状態	ボルト・ナットに緩み、ガタ、脱落はないか	取付	○	○	○	
ハンドル	取付状態	ボルト・ナットに緩み、ガタ、脱落はないか	ハンドル	○	○	○	
計器	アワメータ(該当製品)	表示時間は該当か、作動状況は適切か	アワメータ			○	
ラベル	警告ラベル及び銘板	貼付けは適切か(剥れ)、損傷、汚れ	ラベル			○	

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

## 7.2 エンジン不調とその処理方法

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	* 点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	* ピストンリングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	* 点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ \* 印は販売店にご相談ください。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。



## 7.3 自己診断表

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二度刈りをする。
土削りが発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	回転速度が速い。	回転時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈りパターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ナイフクラッチワイヤを調整する。
	ナイフカバー内に異物が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	プーリへの草の堆積。	プーリをきれいに清掃する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
変速しない。	変速の位置がズレている。	チェンジガイドの調整。
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	新しいナイフと交換する。
	ナイフの損傷。	新しいナイフと交換する。
	ナイフネックガード内への草の堆積。損傷。	ナイフネックガードを清掃、交換する。
	ナイフ軸が曲がっている。	ナイフ軸を交換する。
	ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフに草が堆積、または巻きついている。	刈取部を清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
エンジンオイルが規定量入らない。または排出されない。	エンジンが水平ではない。	エンジンを水平にする。
ナイフがすぐに止まらない。またはブレーキを引きずる。	ナイフブレーキの調整不良。	ナイフブレーキワイヤーを調整する。
傾斜地に駐車すると動き出す。またはブレーキを引きずる。	駐車ブレーキの調整不良	駐車ブレーキワイヤーを調整する。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。